《　応募書類作成に当たっての留意事項　》

【履歴書（様式第２号）】

１　「氏名」の欄には、本名をフルネームで記載してください。 旧姓等の通称名を使用している場合は（ ） 書きで併記してください。

２　「生年月日（ 歳）」の欄には、記入日現在における満年齢を記入してください。

３　「学歴」の欄について

① 高等学校卒業以降について記入してください。大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。）を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を記入してください。なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。

② 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。

③ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。外国における資格にあっては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。

④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

４　「職歴」の欄について

① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を記入するとともに、職名、地位等についても明記してください。

② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については（現在に至る）と記入してください。

③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

④ 過去における大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあっては、判定結果を含む。）を記入してください。また、過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時 期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入してください。

⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

⑥ 大学等における非常勤講師についても記載してください。

５　「学会及び社会における活動等」の欄について

① 「現在所属している学会」には、記入時において所属する学会の名称を記入してください。

② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入し

てください。

③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

６　「賞罰」の欄には、学会や出版社からの表彰、職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。

７ 「職務の状況」の欄について

① 記入日現在における職務の状況について記入してください。

② 大学等の教員の場合は、「勤務先」に大学等の名称、「職名」については「教授」「准教授」等の職位を、「専任等の別」については担当授業科目ごとに、「専任」(所属学部･学科の授業科目担当)「兼担」(所属学部･学科以外の授業科目担当)「兼任」(非常勤講師としての授業科目担当)のいずれかを記入してください。
授業時間数は、担当科目の総授業時間数を記入してください。（試験は含まない）ただし、同一科目を複数クラス担当する場合は、「総授業時間数　×　クラス数」を記入し、分担する場合は「担当時間 ／　総授業時間数」を記入してください。また、備考欄に担当クラス数又は「分担」「オムニバス」等記入してください。なお、授業時間数は90分授業を2時間として計上してください。

③ 大学等の教員以外の場合は、「担当授業科目」は空欄とし、「備考」欄に職務の実態がわかるように、適宜記入してください。ただし、大学等における非常勤講師がある場合は、上記②により記入してください。

④　各欄の幅については、記入しやすいよう適宜変更してください。

８ 「氏名」の欄の印は、本人の署名をもって代えることができます。

様式第２号（第４条関係）

履　　歴　　書

記入時の満年齢を記入

（ふりがな） 氏　　名	けんだい たろう 県大　　太郎	男・女	生年月日 （　歳）	昭和　　年　　月　　日生 （　　歳）
現　住　所	（〒739-2615　） 広島県東広島市黒瀬春日野○－○			
勤務先所在地	（〒734-0003　） 広島県広島市南区宇品東○－○－○			
連絡先電話番号	□□□-□□□-□□□□			

学　　歴

年　　月	事　　項
昭和○年 3 月	広島県立○○高等学校○○科卒業
昭和○年 4 月	○○大学医学部医学科入学
昭和○年 3 月	○○大学医学部医学科卒業 学士（医学） 題目「＿＿＿＿＿＿」
昭和○年 5 月	医籍登録　　第○○号
平成○年 4 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程入学
平成○年 4 月	□□□University、UK（□□□大学）留学（平成○年 10 月まで）
平成○年 3 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程修了　修士（○○学） 題目「＿＿＿＿＿＿」
平成○年 4 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻博士課程入学
平成○年 3 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻博士課程〔単位取得後退学〕
平成○年 10 月	○○大学大学院○○研究科　博士（○○学） 題目「＿＿＿＿＿＿」

留学先がある場合は、留学先の名称をアルファベットとカタカナで併記
※国名必須

学位に付記された専攻分野の名称を記載
学位論文の題目を併記

所定の単位を取得し、博士の学位を授与されないまま退学した場合

職　　歴

年　　月	事　　項
昭和○年 4 月	△△大学△△学部△△学科　助手（平成○年 3 月まで）
平成○年 10 月	○○○Institute、 USA(○○○研究所）研究員（平成○年 3 月まで）
平成○年 4 月	▽▽大学△△学部△△学科　講師　担当授業科目：「○○学概論」「○○学演習」（平成○年 3 月まで）
平成○年○月	大学設置・学校法人審議会の教員審査において○○大学○○学部○○学科専任准教授「「○学概論」「○○学演習」の資格有りと判定
令和○年 4 月	□□大学○○学部△△学科　准教授（現在に至る）

在職期間を明記

担当科目まで記載してください。

学部等設置時の前判定があれば記載してください。

学会及び社会における活動等

現在所属している学会	日本○○学会、△△学会

年　　月	事　　項
	「学会活動」
昭和○年 4 月平成○年○月 平成○年度～平成○年度	日本○○学会会員（現在に至る） 日本○○学会第○回○○大会○○分科会において座長を務める 「研究活動」 科学研究費補助金（基盤研究 C)「○○に関する○○研究」　研究代表者

賞　　罰	
年　　月	事　　項
平成○月 7 月	日本○○学会　◇◇賞　受賞

職　務　の　状　況

勤務先名称	職　名	学部・学科等（所属部局）の名称	担当授業科目			備　考
			授業科目名	専任等の別	授業時間数	
□□大学	准教授	○○学部△△学科	○○学概論	専任	30×2	2 ｸﾗｽ担当
□□大学	准教授	○○学部△△学科	○○学演習	専任	10/30	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
□□大学	准教授	○○学部△△学科	○○学実習	専任	60	
◇◇大学	非常勤講師	※※学部※※学科	○○学特論		30	

上記のとおり相違ありません。

令和　　年　　月　　日

氏　　名　　㊞

同一科目を複数ｸﾗｽ担当する場合

総授業時間数を記入（原則15回分）
分担する場合は○/□と記入し、担当時間を明確にする。
なお、授業時間は90分を２時間として計上する。

【教育研究業績書（様式２）】

１　この書類は、公募分野・担当予定授業科目に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び著書、学術論文等の業績について作成してください。

２　「氏名」の欄について

① 印は、本人の署名をもって代えることができます。

② 本名をフルネームで記載してください。 旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで併記してください。

３　「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

① 担当予定授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。

② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。

③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

④ 「教育上の能力に関する事項」の例

ア　「１　教育方法の実践例」

〇授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等

〇司法研修所等の教育機関における教育経験

イ　「２　作成した教科書、教材」

〇授業や研修指導等で使用する著書、教材等

ウ　「３　教育上の能力に関する大学等の評価」

〇各大学における自己点検・評価での評価結果

〇学生による授業評価、教員による相互評価等の結果

エ　「４　実務の経験を有する者についての特記事項」

〇大学から受け入れた実習生等に対する指導

〇日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等

〇訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修

〇大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

オ　「５　その他」

〇修士・博士　学位指導実績、学位審査（主査・副査）の実績

〇大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等

〇国家試験問題の作成等

⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例

ア　「１　資格、免許」

〇医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

イ　「２　特許等」

〇特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの

ウ　「３　実務の経験を有する者についての特記事項」

〇職務における実績・成果で担当予定授業科目に関連するもの

〇大学との共同研究

〇訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績

〇各種審議会・行政委員会、各種ＡＤＲ等の委員

〇行政機関における調査官等
〇研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
〇調査研究、留学、海外事情調査等
〇上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等

エ 「４　その他」
〇職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
〇論文の引用実績等

⑥ 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。

４　著書、学術論文等の業績について

① 記入時において未発表のものは記入できません。

② 「著書、学術論文等の名称」の項について

ア　研究等に関連する主要な業績を、「（著書）」、「（学術論文）」、「（その他）」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。

イ　著書については出版された書籍とし、書名及びISBNｺｰﾄﾞ、ISSNｺｰﾄﾞを記入してください。

ウ　学術論文については、学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。

エ　その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあっては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあっては当該テーマを記入してください。

オ　査読付きの論文については、題名の下に「（査読付）」と記載してください。

カ　当該著書、学術論文等が外国語の場合、著書等名（共著の場合は本人担当部分の章、節、題名も含む）はその外国語で記入するとともに、（　　）書きで訳文（日本語訳）を記入してください。応募者の母国語が日本語でない場合は、訳文（日本語訳）は必須ではありませんが、できる限り訳文（日本語訳）を記載してください。

③ 「単著・共著の別」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。「共著」で筆頭著者を務めた場合は「（FA）」論文責任者を務めた場合は「（CA）」を付記してください。

④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。

⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について

ア　著書については、発行所を記入してください。

イ　学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。

ウ　報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。

⑥ 「概要」の項について

ア　当該著書等の概要を200 字程度で記入してください。（英語の場合は100ワード程度、訳文（日本語訳）を付記する。応募者の母国語が日本語でない場合は、訳文（日本語訳）は必須ではないが、できる限り訳文（日本語訳）を記載すること。

イ　当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入

するとともに、本人の氏名（下線を付すこと。）を含め著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名）を当該著書等に記載された順に記入してください。また、当該研究成果の本人担当部分を記載する。

本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入してください。

（例：「共同研究につき本人担当部分抽出不可能」など）

本人担当部分をページ数等定量的に抽出することが困難な場合であっても、安易に担当部分抽出不可能とはせずに、「研究の〇〇〇〇部分を担当」等定性的な記述でも構いませんので、できるだけ本人担当部分を積極的かつ明確に記載してください。

様式第３号（第４条関係）

教　育　研　究　業　績　書

英語の場合は、訳文（日本語訳）を付記する。応募者の母国語が日本語でない場合は、訳文（日本語訳）は必須ではないが、できる限り訳文（日本語訳）を記載すること。

実施期間を項目ごとに、旧→新で記載（和歴又は西暦）

令和　○年　○月　○日
氏名　　県大　太郎　　㊞

教育上の能力に関する事項	年月日	概　　要
１ 教育方法の実践例 資格試験対策講座の実施 視聴覚教材を利用した講義	平成○年 4 月～現在 平成○年 4 月～現在	資格試験対策講座の企画・運営に従事し、合格率を○%から◇%へ向上させた。 「○○学」「△△学」を担当する上で、パワーポイントやビデオを用い、わかりやすい講義を展開している。
２　作成した教科書、教材 資格試験対策関連テキスト	平成○年 11 月	資格試験問題の内容を検討し、将来的展望も見据えて作問した。
３ 教育上の能力に関する大学等の評価 教員業績評価 学生による授業評価	平成○年～ 平成○年	毎年実施される学生授業評価において、平均○点と高い評価を得ている。
４ 実務の経験を有する者についての特記事項 高大連携講座	平成○年 8 月	高校生○名を対象に、大学の模擬授業を実施した。 テーマ：※※※※※※※※
５ その他 ○○協議会○○委員 ※その他、大学院（修士・博士）研究指導実績、学位論文審査実績（主査・副査）があれば記入してください。	平成○年 4 月～平成○年 3 月	○○協議会における○○委員として○○を実施した。
職務上の実績に関する事項	年月日	概　　要
１ 資格、免許 医師免許	昭和○年 5 月	医籍登録（第○○号）
２　特許等 ○○用装置	昭和○年 12 月	○○のための○○用装置を共同開発した。 担当：○○の方法提案及び○○に関する実験・検証 共同出願者：A、B、県大太郎、C、D
３ 実務の経験を有する者についての特記事項 広島県○○審議会委員 ○○企業での実務経験	平成○年 4 月～平成○年 3 月 平成○年 4 月～平成○年 3 月	学識経験者として就任 活動内容：○○○プロジェクトを実施。（以下プロジェクトの活動内容を記載）○○○・・・○○○ 役　　割：○○○ 成　　果：○○○・・・○○○
４ その他 論文引用実績		発表順（昇順）に通し 番号をつけて記載

英語の場合は、訳文（日本語訳）を付記する。応募者の母国語が日本語でない場合は、訳文（日本語訳）は必須ではないが、できる限り訳文（日本語訳）を記載すること。

著書、学術論文等の名称 ISBN コード、ISSN コードを記載	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1 書名 （ISBN--------）	単著	平成○年 7 月	××書房	○○○・・・○○○についての考察 （200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） A○判 全○ページ
2 書名 （ISSN--------） ※シリーズもの（全集、講座、叢書等）の１冊である場合は、表題の下段に（ ）書きでシリーズ名及び当該巻数を付記してください。	共著	平成○年 11 月	△△堂	○○○について解説した。（共著書全体の概要を簡潔に） A○判 全○ページ 編者：○○○○ 共著者：F、県大太郎、G、H、I、J、K 本人担当部分：第 2 章第 3 節○○の方法 pp.73-98 を単著。 ○○○・・・○○○。（本人担当部分の概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載）
（学術論文） 1 論文名 （査読付） （和訳）	共著 （FA）	平成○年 2 月	○ ○研究 17 巻 1 号、pp.66-81	○○について検証し△△となることを示唆した。（論文全体の概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） 本人担当部分：○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共著者：県大太郎、L、M、N 他 10 名
2 monograph （査読付） （和訳）	単著	平成○年 7 月	Journal vol.18 pp.127-131	○○の有効性を確認した （概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載）
3 monograph2 （査読付） （和訳）	共著 （CA）	平成○年 12 月	Journal vol.18 pp.221-229	○○のために□□の解析を行った。（論文全体の概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） 本人担当部分：○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共著者：XXxx YYyy、Taro Kendai、Peee Roo
4 ○○○○○ （博士論文）	単著	学位授与年月日	学位授与大学名	○○○・・・○○○。（概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） A○判 全○ページ
（その他） 【総説】 1 発表テーマ	共著	平成○年 1 月	※※センター研究報告 20 号、pp.29-36	○○の有用性を検討した。（全体の概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） 本人担当部分：○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共著者：S、T、U、県大太郎、V
2 発表テーマ	単著	平成○年 3 月	○○大学○○学部紀要第 8 号、pp.75	○○の影響を調査し、比較検討した。（概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載）

共著書の本人担当部分を単独執筆された場合はその旨を記載してください。

筆頭著者の場合

共著論文の場合、本人担当部分として、研究への関わり方を積極的に記載してください。

論文責任者の場合

共著論文の場合、本人担当部分として、研究への関わり方を積極的に記載してください。

【国際学会発表】 1 paper （査読付） （和訳）	共著 （FA）	平成○年 5 月	International of Congress （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）	○○について調査した結果、○○傾向が認められた。（全体の概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載） 本人担当部分：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共同演者：Taro Kendai、Peee Roo
【国内学会発表】 1 発表テーマ （査読付） 【その他】 なし	単著	平成○年 9 月	第 □ 回○ ○ 学会（大阪）	○○の事例から、○○について分析した結果、○○を示した。(概要を 200 字程度、英語の場合は 100 ワード程度で記載)
	業績のまとめを記載			

（内訳）
○著書　　__冊　（うち、単著__冊、共著__冊）
○学術論文　__編　（うち、査読付__編、国際誌査読__編）、（英文__編、和文__編）、（単著__編、共著__編）
○その他　　__編　（雑誌、新聞寄稿等、公募分野に関連するもの）